

# 第1学年 算数科学習指導案

令和7年6月27日(金)

場所 1年1組 教室

## 1 単元名 のこりはいくつ ちがいはいくつ

## 2 目標

減法の意味と被減数が10以内の減法計算の仕方を理解し、数量の関係に着目して減法の意味や減法計算の仕方を考える力を養うとともに減法の意味や減法計算の仕方を操作や式に表して考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養う。

## 3 評価規準

- 求残や求補、求差など、減法が用いられる場合について知り、減法の意味を理解し、被減数10以内の減法計算が確実にできる。(知識・技能)
- 減法の意味に着目し、求残や求補、求差などの場面を減法の式に表し、その計算の仕方を数の構成や操作などを用いて考え、表現している。(思考・判断・表現)
- 減法の意味や減法計算の仕方について、数構成や操作などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

## 4 単元について

児童は、これまでに、具体的な操作を通じて集合数や順序数の意識を育てるとともに具体物や算数ブロックなどを用いて、10までの数の構成(合成、分解)を学習し、数概念の理解を深めてきた。また、前単元「あわせていくつ ふえるといくつ」では、これらの理解を基礎として加法について学習した。そこで加法の意味、算数ブロックでの操作、式表示、式の読み取り、計算の仕方などの学習経験が、本単元の素地となる。求残、求補、求差といった減法の3つの問題場面について、問い合わせを見いだすよう仕掛けていく。

## 5 児童の実態

これまでの学習において、集合数の理解を基盤として、加法の意味を理解してきた。その際、子供たちは、問題解決の手段として問題場面をブロックに置き換えたり、説明しながら立式したりすることを学習している。また、加法の問題づくりにおいては、公園の遊具で遊ぶ子供の絵など具体的な生活場面の絵を提示することで、意欲的に問題づくりに取り組むことができた。

しかしながら、式と問題場面がうまく結び付かず、加法の意味理解が曖昧であったり、式に合った問題づくりに苦戦したりしている児童もいた。本単元においては、子供の思考を促し、着実な減法の意味理解定着とともに、友達と協働的に学びを深められるよう手だてを講じたい。

## 6 研究の視点（子供の思考を促す教員のはたらきかけ）

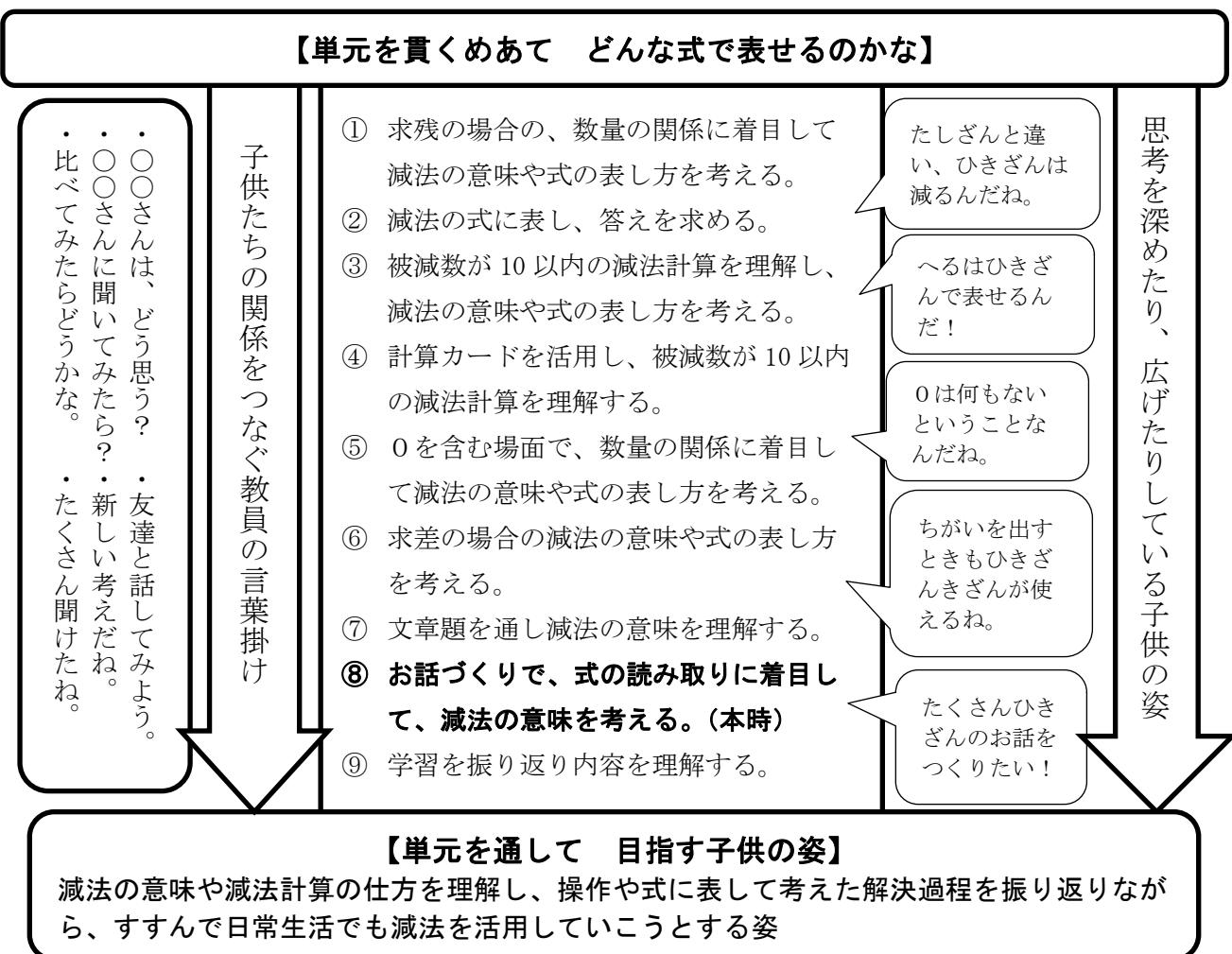
### 【B 学びを生かす掲示や環境デザイン】

- 既習の内容や学び方を振り返る場の設定として、これまでの学習を振り返ることのできる掲示を行う。その際、子供たちが、問題解決の手掛かりとして活用できるよう児童の目線に合わせてパネルに掲示したり、毎時間の板書を生かしたりしながら工夫して掲示する。

### 【D 協働的に学び、思考を深める場の設定】

- ひきざんのお話づくりを行う際に、1枚の学習シート上で問題場面絵を見ながら思考できるような工夫を行う。その際、意味理解や式と問題場面の結び付きの理解が不十分な児童には、さらに手がかりの多いシートも用意し解決の手立てとする。
- 主体的かつ協働的に学び合う場の設定として、グループごとに机を寄せたり、教室内にお話コーナーを設置したりして、自由に場面絵を動かしながら思考できるような場の工夫を行う。

## 7 単元構想（9時間扱い 本時8／9）



## 8 本単元における、主体的に考え、共に学び合う子供の姿

本単元における「主体的に考え、共に学び合う子供の姿」とは、すすんで既習事項を生かし友達と協働的に問題解決に向かう姿であると考える。具体的には、減法になる場面を具体的に捉え、問題づくりを通して、友達とその解決過程を説明し合うことで、より主体的に学ぶことができると考える。その際問題場面と式とを結び付けて理解する根拠となるようなキーワードも押さえたい。

## 9 本時の目標（8／9）

- ・減法の意味理解を基にして、式を読み取ってお話をつくり、説明することができる。

## 10 学習過程

	○学習活動・内容 T：教員の発問 C：児童の反応	・指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法） ★研究の視点
導入	<p>○前時の学習内容を振り返る。 T：前回までのひきざん学習で、わすれたくない言葉は何だったでしょう。 C：ちがいは、のこりは、そのうち・・・。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求差の場面だけでなく、求補、求残の場面についても既習の掲示をもとに振り返る。</li> </ul> <p>★既習の内容や学び方を振り返る掲示を活用する。【B学びを生かす掲示や環境デザイン】</p>
展開	<p>○絵を見て、どんな場面か話し合う。 T：何をしているところかな。 C：公園で子供たちが遊んでいます。</p> <p>○本時の課題を知りお話をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が発表した場面がどの部分なのか絵で確認し、登場しているものの数もマークしながら着目させる。</li> </ul> <p>めあて： <math>7 - 4 = 3</math> のしきになる ひきざんのおはなしをつくろう。</p>
まとめ	<p>T：こうたさんの例をもとに考えてみましょう。 C：ちいさいちょうど、おおきいちょうどをくらべれば、ちがいがわかるね。</p> <p>①ちいさいちょうどが7ひきいます。 ②おおきいちょうどが4ひきいます。 ③ちがいは3びきです。</p> <p></p> <p>T：学習シートを見ながらどんなお話がつくれるか見付けてみましょう。</p> <p>○考えを発表し合う。 T：友達がどんな話をつくったか、皆で聴きあいましょう。</p> <p>C：公園に子供が7人いました。4人帰りました。 残りは3人になりました。 C：すづめが7わいました。4わとんでいきました。 残りは3わになります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例を参考に、文を3つに区切り、被減数となる条件の部分、減数となる条件の部分、残った結果の部分があることを意識させてお話をつくらせる。</li> <li>・児童の思考が整理させるよう板書には具体物（ちょうど）と半具体物（ブロック）も合わせて提示しながら説明し、問題づくりのイメージをもたせる。</li> <li>・ひきざんの場面にするには、求残、求補、差の場面を捉えればよいことに気付かせる。（キーワード提示）</li> </ul> <p>★グループごとに机を寄せたり、教室内にお話コーナーを設置したりして、自由に場面絵を動かしながら思考できるような場の工夫を行う。【D協働的に学び、思考を深める場の設定】</p> <p>◇減法の意味理解を基にして、式を読み取ってお話をつくり、説明することができる。 (発言・学習シート)</p>